

平成18年度第2回理事会 新春賀詞交換会

本会は1月19日、千葉市内のホテルにおいて理事会を開催した。始めに坂戸誠一会長より「中央会の使命を再認識し、県下中小企業が環境変化に即応し得る連携組織の構築ができるよう支援していきたい」との挨拶があり、その後、①平成18年度事業進捗状況並びに収支状況が了承され、②諸規程の一部制定について審議され原案どおり可決決定した。

その後県や商工中金の来賓をお招きして賀詞交換会が開催された。

官公需問題懇談会

本会は1月29日千葉市内において官公需問題懇談会を開催した。

はじめに、関東経済産業局官公需適格組合審査諮問委員会委員長で千葉県官公需研究会会長の伊藤公一千葉商科大学教授が「官公需を取り巻く情勢と今後の方向性」について講演し、続いて伊藤先生が座長になって発注機関の代表者を交えて懇談した。

ちばデスティネーション キャンペーン

JRグループと地元自治体、観光関連事業者、商工団体などが連携し、全国から観光客誘致を図る「ちばデスティネーションキャンペーン(DC)」が2月1日から県内全域でスタートした。1日にはタイアップ企業であるJR東日本が千葉〜木更津間に「D51」を投入しキャンペーンの開幕を祝った。その後D51は木更津〜館山間に3日から延べ5日間運行する。



18年ぶりに千葉の地を走行したのと同型のD51(キャンペーンのポスターより)

この国内最大級の大型観光キャンペーンであるちばDCのコンセ

プトは「房総発見伝」これはお馴染みの曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」にちなんだもので、そのモチーフになぞらえて県内観光の魅力の多様性を「花・海・健・歴・祭・味・夢・美」の8つのキーワードで表現し、4月までの期間中はこのキーワードをテーマとした房総発見の旅が提案されていく。

また、県域を南房総、北総、九十九里、ベイ東葛の4つのエリアに分け、各地でDCを象徴するイベントを次のように順次実施する。

▼2月3日「房総発見伝・オープニングフェスティバル」開幕に当たるイベントは南房総エリアで行われる。館山市、南房総市、鋸南町で実施された。主なテーマは「花」と「歴」。

▼3月10日「小江戸・佐原まちめぐりウォーキング」北総エリアでは佐原の祭り文化や歴史に育まれた地元の味に触れる街歩きを中心とした企画。主なテーマは「祭」と「味」。

▼4月15日「九十九里ウォークフェスタ」海の文化に親しみつつ浜歩きを楽しむイベントのほか、健康をテーマにした展示や講座などの多彩なイベントを開催する。

主なテーマは「海」と「健」。

▼4月30日「房総発見伝・グラウンドフィナーレ」キャンペーンの最後を飾るのはベイ・東葛エリア。千葉市中央公園に設ける特設ステージでは、県内の高校生によるマーチングバンドと brassバンドの演奏が行われ、千葉県観光の未来に向けた夢を発信する。主なテーマは「夢」と「美」。

また、これらのイベントの外にもDCの期間中には400種類以上の多くのイベントが県内各地で計画されている。

DCキャンペーンは2005年に会津で開催されたときには大きな成果を上げており、開催後も着実に会津地方を中心に福島県の観光振興につながった。今回は首都圏で初めての開催となるだけに、これが成功して、千葉県が全国区の観光地へと飛躍発展するきっかけになるよう期待されている。

平成19年度経済見通し

このほど「平成19年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」が閣議了承された。

それによると、平成19年度の我

が国経済の見通しについて、世界経済の着実な回復が続く下、企業部門・家計部門とも改善が続き、改革の加速・深化と政府・日本銀行の一体となった取り組み等により、物価の安定の下での自律的・持続的な経済成長が見込まれる、としている。

ちなみに国内総生産は名目で17年度実績が503・4兆円(対前年度比1・0%)、18年度実績見込みが510・8兆円(1・5%)、19年度見通しが521・9兆円(2・2%)となっている。

また、政府は「成長なくして日本の未来なし」の理念の下、「戦後レジームからの新たな船出」を行うため、イノベーションの力とオープンな姿勢により、今後5年間程度で「新成長経済への移行期」を完了するものとし、その初年度である平成19年度においては、「創造と成長」の実現を図るとの方針の下で、成長力強化に向けた改革を加速・深化させるとともに、併せて地域経済の活性化や再チャレンジ可能な社会を目指すための取り組みを強力に推進する等の経済財政運営の基本的態度を示している。